



## 「人間革命の歌」の成り立ち

「人間革命の歌」は、池田名誉会長が作詞・作曲したもので、1976年(昭和51年)7月18日の本部幹部会の席上、発表された。

池田名誉会長は、「人間革命の歌」に託した心情を語っている。

「『人間革命の歌』はどんな吹雪にも胸を張って生きていこうという心を歌ったものです。人生には暴風雨があり、暗い夜もある。それを越えれば、苦しみの深かった分だけ、大きな幸福の朝が光るものです」

「人間革命の歌」が発表された当時、学会に対して、僧侶による一方的な嫌がらせがあった。

その“苦悩の鎖”を解き放つ「魂の自由」の歌、「幸福への前進」の歌として、名誉会長が尊き同志のために渾身の激励として贈ったのが、この「人間革命の歌」なのである。

池田名誉会長がこの歌を作詞したのは発表の2日前の7月16日。ただちに曲想が練られ、検討が重ねられた。

ピアノを弾く人のかたわらに立って、メロディーを口ずさみながら、曲想を練っていく名誉会長。作曲の作業は深夜におよび、発表の直前まで何度となく修正が加えられた。

「人間革命の歌」が発表された7月18日の本部幹部会の会場には、強い決意がみなぎり、感動の拍手がわき起こった。

翌19日、関西戸田記念講堂で行われた、女子部結成25周年記念の総会は、誕生したばかりの「人間革命の歌」の大合唱に始まり、大合唱で終わった。

池田名誉会長はつづっている。

「君も立て 我も立つ / 広布の天地に 一人立て/

正義と勇気の / 旗高く 旗高く / 創価桜の 道ひらけ

広宣流布は、『一人立つ』ことから始まる。そして一人ひとりが、自分のいる場所をば、

使命を果たすべき『広布の天地』として立ち上がるところに、『人間革命』があることを、

絶対に忘れてはならない」

苦悩の暗雲を払って立ちあがり、“希望の太陽”をわが心に輝かせる——全世界の同志の心を揺さぶり、歌い継がれる「人間革命の歌」。それは、どんな「苦難」をも「歓喜」に転換していく「人間王者」の「勝利の凱歌(がいか)」なのである。

